

薄くして民を裕にするは、即ち国力を養成するなり…」

「会計出納は制度の由て立つ所ろ…」等など。

「敬天愛人」に結晶した薩摩の武人の言葉は、今もなお色褪せることは無い。

日本に残存する城廓の天守閣は、歴史的景観を踏まえつつ、都市緑化の最前線として、防災拠点として機能することが求められている。

新天地へ

足柄の山野に狩りし、足柄の酒をこよなく愛した福沢諭吉（ふくざわ・ゆきち）は箱根湯本の福住旅館に静養し、報徳の英知を全身で吸収されたことであろう。

先人の治山治水事業の精華として、相模湾の幸、清流の鮎、丹沢山系の自然薯までも、花と湯治の里に押し寄せ、旅人は英気を養い、魂の解放を試みる。

明治の出版事業先駆者 福沢諭吉は「理想の読書人」二宮金次郎先生の足跡と農聖 尊徳翁の思想の軌跡に、箱根で巡り逢うことは、究極の観光に違いない。

慶応4年 1868年 福沢諭吉はささやかな義塾を江戸に建学したものの、第1期生は、むとうさんじ ひらがさとし武藤山治と平賀敏の2名であった。

後の鐘紡（カネボウ株式会社）の社長 武藤山治は、関西財界の雄となる 平賀 敏と共にアマゾニア Amazonia の農業開発に心血を注ぐ運命となる。

昭和3年（1928年）たなかぎいち田中義一首相としづさわえいいち渋沢栄一の音頭取りで鐘紡財閥を主力に、南米拓殖株式会社、略称・なんたく南拓は、国家事業の威厳をもって設立される。

事前調査を重ねた移住地には、移民の配耕に先立ち、学校、病院、農事試験場を建設し、準備万端のはずが、風土病の蔓延と経営不振に陥ってしまった。

自らもアマゾニアに渡り陣頭指揮を希望する平賀 敏であったが、すでに高齢にして病床にあり、12人兄弟の四男 平賀連吉に白羽の矢が立つ。

本多静六博士の偉業で名高い東京帝国大学 農学部で林学を修め、農務省大阪営林局に奉職していた練吉は、父の生涯事業の窮状打破を託されるのだ。

父を見送り、喪が明けて、すぐに結婚、出航へとためらいは全く無い。

父の贈る言葉「向こうへ行ったら自分の事はよい。他人のために働け」を胸に平賀練吉ひらがれんきち 29才、妻 清子きよこ 24才。

歓びの山 モンテ・アレグレ

昭和6年（1931年）アマゾン大河の河口より 800km ほど遡った原生林地帯のモンテ・アレグレ郡 Monte Alegre に 40 万ヘクタールの南米拓殖直営移住地が設定され、若き夫婦と開拓団員 47 名は入植する。平賀練吉は農業組合活動と農事試験場の基礎づくりに手腕を発揮する。

アマゾン河流域は、雨季乾季の増水と減水の周期リズムに支配され、今なお人々の生活と産業を完全に支配している。乾季に出現する幾千の中州は、興亡を繰り返し、船舶の運航には、大変な熟練を要するのである。

モンテ・アレグレ移住地は、大河本流に臨む丘陵にあり、対岸サンタレン Santarém ま